

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	人として尊厳・尊重の意を理解し、一人ひとりの心を見るケアを行い、住み慣れた地域・自然の中で生活していくという理念を掲げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ユニットの中に理念を書面とし掲示し、いつでも確認出来る様にされている。また、理念にのっとって「その人らしさ」を実現出来る様にスタッフ間での連絡・報告の徹底を心掛けている。		実現での取り組みには差があるため、ユニット内で会議をしていきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	毎月1回広報誌を配布し、ご家族や地域の方にホームでの活動内容等をお知らせしている。また、ホームでの行事等にもご家族や地域の方々に積極的に関わり、理解していただける様努めている。		配布場所を増やし、より多くの方に事業所を理解していただき地域の中に浸透していきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ホームでの行事を伝え、ボランティアとして参加していただいたりしている。また、自宅で採れた野菜を持ってきてくださったり、山菜等の差し入れもある。手作りの手芸品も持ってきてくれたり、春にはお花の球根もくださり、一緒にホームの花壇に植えたりしている。		もう少し近隣の方との交流を増やしていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の「夏祭り」や「ハッピー広場(乳幼児・高齢者の交流会)」に参加している。中学生の職場体験学習のの受入を行い交流を図っている。		ホームでのお祭り等を開き、地域の方が気軽に参加できる交流を増やしていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の福祉部の方に声掛けを行い、ホームでの行事等に参加していただき、カラオケ等を行っている。今後は、地域の老人クラブへの参加や、協力病院にも依頼し、地域の方々の健康相談等も行なっていきたいと計画を立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価を実施するにあたり、全体会議でその意義について説明を行い、スタッフ一人ひとりが理解し取り組める様にしている。改善についてもスタッフ全員で話し合い具体的に取り組める様にしている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月1回運営推進会議を開催し、ホームでの現状を説明し、ご家族・町内会・包括支援センター等の方々から意見をいただき参考にしている。</p>	<p>広く意見交換の出来る場としていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市のグループホーム交流会を通じて、グループホームの現状を理解していただき、相談等行なっている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>包括支援センターで行なわれる地域ケア会議等で研修会があり、参加している。</p>	<p>研修の機会を増やし、内部研修等で発表しスタッフ全員で学ぶようにしたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待の関心も強く、スタッフ全員が虐待を行なわないということも正しく理解している。研修等にも参加し、勉強会を行っている。</p>	<p>研修の機会を増やし、内部研修等で発表しスタッフ全員で学ぶようにしたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に、入居者・ご家族に対し、書面・口頭にて十分説明を行い理解していただいている。解約時も同様、不安や疑問点などわかりやすく説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者がいつでもどんなことでも話せる様な雰囲気を作っている。また、訴えが困難な入居者からは態度や表情等から気付ける様常に注意を払っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	入居者の日常の様子を写真付きのお手紙にして月1回広報誌と共にご家族に送付している。金銭管理についても、出納帳のコピーと領収書を送付し報告している。		手紙だけでなく、今後は写真を数枚一緒に送り、日常の様子をもっと知っていただきたい。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や行事等で意見を言ってもらえる様な雰囲気を作っている。また、玄関に意見箱を設置したり、契約時にも苦情等があった際の相談窓口に対しても説明をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議やユニット会議、また日常の中でも意見や要望を聞く様な機会を作っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整を行い、受診や外出等に支障が無い様シフトを組んでいる。また、突発的な状況に対しては、他のユニットからヘルプに入ってもらえるなどの対応をとっている。		家族の協力やボランティアの受入等を増やし、密度の濃いケアを心掛けていきたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットのスタッフをなるべく固定し、移動や離職等の軽減に努めている。また、やむを得ず離職するスタッフがいた際は、引継ぎ等をきちんと行い入居者が不安にならない様対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等はレベルに応じて随時参加している。また、外部で行なった研修については内部研修等で発表し、スタッフ全員で学べる様にしている。		外部研修の参加を多くしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市内のグループホーム交流会「絆の会」を通じて同業者同士の交流を図ったり、研修会を行ったりしている。また、他のグループホームの行事等に入居者も交えて参加している。		意見交換など、頻繁に行なっていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者から、気軽に声をかけていただいているので、どんなことでも話し合えるような雰囲気作りが出来ている。また、ユニット間では月に1回程度、勤務後食事を開き交流を持っている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者がスタッフ一人ひとりの状況を把握していただいているので、そのレベルに応じた資格や研修資料等を用意してくれたり、励ましの言葉をかけてくれている。また、日常の中にもスタッフ一人ひとりが役割を持ち、活躍の場面を作っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時から、本人・ご家族・施設担当者等から情報をいただき、利用に至るまで何度も本人から話を伺ったり、不安の軽減に努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の困っていること等、きちんと把握し、利用に際しての不安の軽減に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・ご家族が必要としているサービスを把握し、当グループホームで対応出来るサービスについて説明している。また、出来ない部分に関しては、他のサービスを照会したり、ご家族の協力体制などを話し合っている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の前に、本人にも見学に来ていただいたり、入居時に馴染みの物を持ってきていただいたりしている。入居後は、ホームに早く慣れていただける様スタッフの声掛け、他入居者との交流の場の雰囲気づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中での会話を大切に、本人の生活の一部となれる様心掛けている。入居者の方からは日常の豆知識を教えていただいたり、行事を一緒に楽しんだり「介護する側」だけににならない様努めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常の様子を伝え、ご家族と一緒に入居者が良い方向へ向える様相談している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日常の様子を伝え、ご家族の存在が欠かせないものと認識していただける様支援している。また、行事等に一緒に参加していただき、共有する時間を作る場面を作り、思いを共感していただいている。		家族が参加できる行事を多くし、共有する時間を増やしていきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の友人・知人の面会も継続して行われている。また、入居者自身も友人宅や会に出掛けたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の交流は盛んに行われ、リビングにて一緒に歌を歌ったり声を掛け合い映画鑑賞に一緒に行ったりしている。また、スタッフからも共通の話題を提供したりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も行事への参加の声掛けをしたりしている。また、ご家族も「近くに来たので…」と気軽に立ち寄っていただいている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ユニット全体ではなく、一人ひとりの思いを尊重し、自分らしい生活が出来る様直接的な言葉ではなくても、希望等を読み取れる様努めている。また、入居以前の生活がホームでも出来る様環境等を検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人・家族・施設担当者等から情報を聞いている。入居後は本人との関わりの中から聞きだしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日、一人ひとりの生活に細かく注意を払うとともに、個別台帳に記録し、把握出来る様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に介護計画を見直している。カンファレンスを開催し、居室担当者が情報収集した原案をもとにケアマネ、他のスタッフ、時には本人・ご家族も参加していただき介護計画書を作成している。		センター方式の一部を取り入れ、ケアプランを作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画期間に応じて見直しを行うとともに、状態変化やご家族の要望等に变化が生じた場合はケアマネの監理のもと現状にあった介護計画書を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別台帳や個人ノート等に日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を記入し情報を共有している。		もう少し詳しく台帳の記載を行ないたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力病院の往診にて入居者の体調等を診てもらっている。 ホーム内の娯楽室を利用して、カラオケや映画鑑賞を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方の定期的な面会や、行事等にはボランティアの方の協力も得られている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	外出時に福祉タクシーを利用したり、月に1度訪問理美容を利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括支援センターの担当者の方に参加していただき、随時、相談出来る様な関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望から、医療機関を決めていただき対応している。協力病院や他科受診に関してもホームでの生活状況や身体状況を報告し、適切な対応をとっていただけ様支援している。また、協力病院による往診後には居宅療養指導を画面でいただき、日常生活や介護計画作成時に活用している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	随時、認知症状等の変化が見られた時には医師や看護師に相談しており、適切な指示をいただいている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師が随時相談にもらい、適切な指示をいただいている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入居者のフェイスシートを入院先の病院に渡し、混乱せずに対応が出来る様になっている。また、入院時も定期的に連絡を取り合い、状況を把握し、早期退院に向けて努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	医師からの話し合いにスタッフも参加させていただき、今後の方向性について話し合っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の希望を尊重し、かつホームで対応出来ること、出来ないことも考慮し医師や看護師を交えて話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移動先にホームから情報提供を行い、ダメージの軽減に努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者一人ひとりに対し、敬意を持ち言葉使いや対応に気をつけている。また、個人の記録や情報等についても他者の目に触れない様保管している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者自身が自己決定出来る様声掛け等を工夫している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者のこれまでの生活リズムを尊重し、ストレスのない生活が送れる様支援している。外出や買い物等も希望に沿う様努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の好みを尊重し、服装や化粧など行なっている。理美容は月に1度訪問理美容が来られているが、以前からの美容室に行かれる方もおり、都度対応している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を立てる際に入居者から希望を取り入れたり、食事づくりをスタッフと一緒にいたりしている。食事介助の際にもただ、口に入れるだけの作業にならない様心掛け食事が楽しくなる様に努めている。食事の片付けもスタッフと一緒にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の嗜好に合わせて、買い物を行なっている。行事等にはアルコール等も提供し、希望者に振舞っている。また、リビングに喫煙スペースを設け、喫煙していただいている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導やおむつ交換を行なっている。排泄を認識出来る方は、夜間以外オムツを使用せず、トイレを使用し排泄できるよう支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の希望を取り、好きな時に入浴出来る様支援している。間隔の開いてしまう入居者の方には声掛けを工夫し、入浴していただく様にしている。入浴前にはバイタル測定を行い、健康管理も行なっている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムを把握し、安心して眠れる様支援している。不眠の傾向にある方に対しては日常の活動量の見直しを行い、薬ではなく自然入眠が出来る様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常の中に個々のその方が出来る範囲での役割を見つけ発揮出来る場面作りをしている。		一人ひとりが活動出来る場面を多くしていきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理はスタッフが行なっているが、外出行事にて買い物に行った際は、その方の能力に応じて支払ってもらうこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム敷地内での外気浴はほぼ毎日行われている。また、知人宅や買い物、散歩等にも定期的に行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食や季節ごとのドライブなど、希望に添って外出の支援をしている。また、本人の希望を伝え、ご家族の協力にて外出することもある。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ホームの電話を利用し、ご家族や知人に電話されたりしている。また、居室に電話を設置したり携帯電話を利用している方もいらっしゃる。スタッフが書くご家族への手紙の入居者の方が書かれたりすることもある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問でき、居心地良く過ごせる様環境を整えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を行い、入居者の弊害となることをスタッフ全員が理解し、ケアを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室の鍵は入居者の意向にまかせている。玄関の鍵は防犯のため、オートロックにて施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮し、昼夜通して利用者全体を把握出来る位置にて見守りを行っている。夜間も定期的に巡回し状況を把握している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	金銭や薬などはスタッフが管理しているが、刃物に関しては個々の状況を把握し、一緒に使用したり見守りを行ったりしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修等で事例をあげ、事故防止や発生時の対応等行っている。また、緊急マニュアルを作成しいつでも閲覧出来る様にしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	市で行なわれる救命救急などの講習に参加したり、グループホーム交流会「絆の会」で行われた救命救急の講習に順次参加している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、年に2回避難訓練や消火器の使用方法について講習を行なっている。また、近隣の方には、推進会議、地域代表の方に協力依頼を要請しており、随時体制をとっていただく様働きかけている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりに起こりうるリスクをスタッフ全員で話し合い、ご家族にも説明し理解していただき、日常生活が抑圧のない自由な生活が出来る様対策を検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、バイタル測定や見守りを行い、入居者の異変に気付く様になっている。また、異変時は申し送りなど縦の連絡網を密にしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの服薬シートをファイルし、副作用や、用法、用量について把握している。服薬の際には一人ひとりの状態を確認し、変化を見逃さない様努めている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日々の記録に排便の状況を記入し、把握出来る様になっている。また、水分摂取を促したり、乳製品を取り入れたり、運動量を増やしたりし自然排便を促している。		もう少し運動量を増やしたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々にあった口腔ケアを行なっている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、食事量や水分量の記録をし、栄養状態の管理を行なっている。また、月に1度カロリーチェックを行い、栄養バランスも見ている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルをいつでも閲覧出来る様ファイルし、定期的に研修も行っている。インフルエンザの予防接種は入居者、スタッフともに摂取している。ホーム内は毎日清掃時に消毒を行い、チェックシートを記入し管理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、台所の洗浄を行い、タオル、まな板、調理器具などの消毒を行っている。定期的に冷蔵庫の消毒も行い、安全な食材を毎日納品している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関のドアにリースを飾ったりして明るい雰囲気をかもしだし、建物周辺にもお花を植えたりしている		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングに花や飾り物で季節感を表し、不必要なものは置かず整頓された居心地のよいスペースとなる様努めている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの配置として一人になれたりしているが、入居者同士で談話されたり、ソファで休まれたり、喫煙されたりと思いいに生活されている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	以前家で使用されていた家具等を持って来ていただいているため、安心感のある、個性のある居室になっている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度をこまめにチェックし、換気等を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりのレベルに合わせて手すりを設置したり、居室の段差を解消したりしている。</p>	<p>立位の困難な方のために手すりの設置を増やしたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>全てに関与するのではなく、出来る力、わかる力を活かしながら、支援するところを都度判断し、出来るだけ自立に向け達成感を感じて意欲的になれる様工夫している。</p>	<p>チームケアについてスタッフ間で話し合う機会を作っていきたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花壇に花を植えたり、中庭には家庭菜園を作ったりして入居者も楽しみ、散歩されている。</p>	

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

一人ひとりの心のケアを重視し、日々穏やかに生活して頂けるよう取り組んでいる。
ご家族や地域との交流を多くし、皆で支えあう社会作りをしていきたい。